



【調査速報】湖南市正福寺 岩瀬谷古墳群

湖南市の谷筋で 5基の古墳を検出！

湖南市正福寺にある岩瀬谷古墳群は、古墳時代後期の群集墳として知られていました。このたび砂防工事にともなって発掘調査を実施したところ、古墳5基などが見つかりました。

5基の古墳はいずれも横穴式石室を持ち、出土した土器などから古墳時代後期後半（6世紀後半）頃に築かれた古墳であることがわかりました。石室内からは、土器類・鉄器類・玉類等の副葬品が出土しました。またそれらとともに、後の鎌倉時代頃の土器なども出土するので、鎌倉時代頃に石室が開けられ、人々が出入りしたようです。その際に、もともと古墳に副葬された品々は移動されたり、持ち出されたりしたと考えられます。とはいっても、残された品々のなかには、銀象嵌ぞうがんをほどこした鉄製の刀の鐔や、黄・緑・青色など色とりどりのガラス小玉等がありました。こうした古墳時代後期の群集墳は、村の有力者層のお墓と考えられ、湖南市の古墳時代を知るうえで、貴重な資料です。

* 岩瀬谷古墳群の現地説明会資料は、当協会ホームページからダウンロードできます。➡ <http://www.shiga-bunkazai.jp/>



岩瀬谷古墳群

▼中央にみえる石組が石室の入り口。石室の天井石があらわれていますが、本来は土まんじゅうのような墳丘が盛られていました。長い年月を経て、墳丘が流れ出し、現在のような状態になりました。



古墳の全景 (D1号墳)



横穴式石室の内部 (D1号墳)

▲入口から石室の奥をみたところ。今回調査した中で、最大規模（長さ 7.6m）の石室です。大小の石をたくさん組み上げています。



「新発見・発掘調査員が語る近江の遺跡と歴史」

現場の最前線で発掘調査員が目にした「歴史の秘密」をご紹介！

公益財団法人滋賀県文化財保護協会の発掘調査員は最前線で活躍する考古学者です。その調査員が調査と研究を通して目にした最新成果を、県民の皆様にわかりやすく伝えます。大学の先生方とはまた違う、現場の生の声をお伝えします。



- ◇受講料：講座全8回で4,000円（初回一括入金式・年間パス引換）
オプショナル現地探訪の優先受付特典 / 欠席された回の資料はお取り置きします（郵送不可）
- ◇定員：100名（申込先着順） ◇時間：各回 13:30～15:30
- ◇会場：滋賀県立図書館 大会議室（JR『瀬田駅』下車→帝産バスで約15分→『文化ゾーン前』下車徒歩5分）
- ◇お申込み方法（電話受付のみ）
*お申込み時には①お名前 ②電話番号 ③ご住所をお伝え下さい。
- ◇お申込・問合先 *受付時間は土日祝日を除く 8:30～17:15
公益財団法人滋賀県文化財保護協会総務課 連続講座（077-548-9780）

■内容 ~「教科」から「教養」へ~歴史の本当の面白さをお楽しみください。

- 第1回：平成24年5月12日（土）「憑依する精霊・土偶の秘密 - 東近江市相谷熊原遺跡 -」（講師：瀬口眞司）
- 第2回：平成24年6月2日（土）「甦る湖辺の弥生ムラ - 守山市赤野井浜遺跡 -」（講師：中村健二）
- 第3回：平成24年7月7日（土）「甲賀の谷の物語り・古墳と中世採石場 - 湖南市岩瀬谷古墳群 -」（講師：辻川哲朗）
- 第4回：平成24年8月4日（土）「大国近江の壮麗なる国府 - 大津市史跡近江国庁跡 -」（講師：平井美典）
- 第5回：平成24年9月1日（土）「新発見・近江名産緑釉陶器の秘密 - 甲賀市春日北遺跡 -」（講師：堀真人）
- 第6回：平成24年10月6日（土）「名家京極家の墓所・徳源院の秘密 - 米原市清滝寺・能仁寺遺跡 -」（講師：中川治美）
- 第7回：平成25年2月2日（土）「中世まじない絵の秘密 - 大津市関津遺跡 -」（講師：吉田秀則）
- 第8回：平成25年3月2日（土）「古墳と集落にみる古代氏族の秘密 - 湖南市植遺跡・泉古墳群 -」（講師：細川修平）

琵琶湖の暮らしと歴史

バッジになった案内人▶



「体験タイムトラベル・古代へGO!」開催。

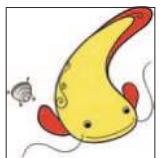
2月11日・12日、イオンモール草津で開催しました。滋賀県内で発掘調査された遺跡・遺物を地域の方々に身近に感じてもらおうと企画したもので、今年で3回目になります。今回は、「奈良時代から平安時代の近江にタイムトラベル」をコンセプトに実施しました。



この催しは仲麻呂くん（藤原仲麻呂?!）たちが案内人となり、当時の役人の生活やまじないの世界を紹介してくれました。彼ら古代のキャラクターは缶バッジになり、クイズラリーの今回限定参加賞として、皆さんに喜んでいただけました。

展示では、赤外線カメラをのぞいて、肉眼で見えない文字がはっきりあらわれると歓声があがりました。また、親子で楽しめるクイズラリーやスタンプラリーでは、子供たちが展示ケースの間をあちこちまわって答えを探し、目を輝かせていました。

普段、博物館等に足を運ばないと見ることのできない本物の遺物を、まじかに、そして調査員がていねいに解説するこの企画、今後も「地域の文化財を地域の人に」をモットーに続けていきたいと考えています。次回もぜひご期待ください。



「あの遺跡は今！Part14」(平成24年2月19日開催)では、遺跡と災害をテーマに、報告会を開催しました。災害の記録は文字資料のほか、発掘調査でも見つかっており、火山灰に埋もれたムラ、火事で消失した建物あと、洪水や土砂崩れで崩壊した住居や寺院、土石流で廃絶したムラなどがあります。こうした遺跡で見つかる災害あととは、大地に刻まれた災害の実態そのものであり、災害史から学ばなければならない様々なことを私たちに語ってくれます。



■最近見つかった地震あと 平安時代の終わり頃、平家が壇ノ浦で滅亡した3か月後の1185年旧暦7月に、琵琶湖西岸断層帯の1つである堅田断層が震源とみられる「文治の地震」が発生しました。この地震は多くの被害をもたらし、鴨長明が書いた『方丈記』など当時の隨筆や日記にも記され、人々は平家の怨霊と恐れました。

記録には「琵琶湖の水が北流した」とあり、この痕跡が長浜市塩津港遺跡の神社跡で見つかりました。地中の砂が液状化して地上に吹き上がる無数の「液状化現象」あとと共に、琵琶湖から押し寄せた大波によって傾いた神社建物の柱や、押し流されたと思われる神像がみつかりました。地震により琵琶湖にも小規模ながら津波が発生したと思われます。

◀長浜市塩津港遺跡の神社建物跡。柱が同じ方向に傾いています。



▲高島市針江浜遺跡の液状化現象あと。当時の生活面に無数に吹き上がった砂が筋状にみられます（わかりやすくするために、吹き上がった砂の部分を白く着色しています）。

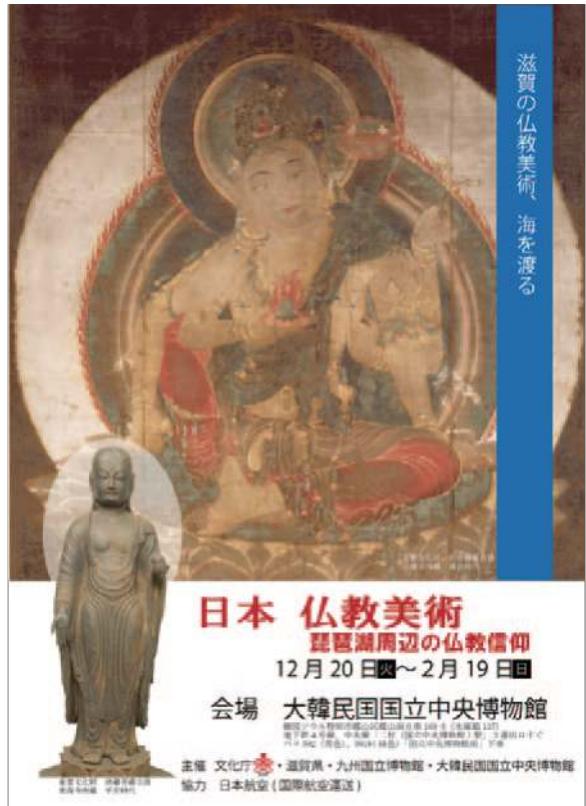


▲針江浜遺跡の地震で埋もれた樹木。

■いろいろな地震あと 滋賀県には多くの活断層があることが知られており、古い地震あととの研究は「地震考古学」と呼ばれています。遺跡で見つかる地震あとには、液状化現象によって吹き上がった砂（噴砂）、搖れによる地層のずれ（断層）、地割れによるき裂などがあります。草津市烏丸崎遺跡や野洲市湯ノ部遺跡では弥生時代の住居跡を切り裂く噴砂跡が見つかっています。烏丸崎遺跡の液状化現象あととは長さ10m以上、幅1mほどもあります。これらはいずれもマグニチュード7.5前後の巨大地震と推定されており、震源は琵琶湖西岸断層帯の北部か花折断層の南部と推定されています。また、高島市針江浜遺跡と草津市烏丸崎遺跡は現在の琵琶湖の底に眠る湖底遺跡で、地震で地盤が沈んで湖底に水没したとされています。針江浜遺跡では現在の湖岸から200mも沖合で住居や耕作地のあとと共に地震による液状化現象のあとが無数に見つかり、その地震で倒壊したと思われる20数本の埋没林が見つかっています。



琵琶湖文化館が休館となって早4年が経ちました。文化館には国宝や重要文化財がたくさん収蔵されているので、なるべく他の博物館などで収蔵品がご覧いただけるように努めています。昨年は九州国立博物館で収蔵品が公開され、これが契機で滋賀県内でも近代美術館、MIHO MUSEUM、大津市歴史博物館が連携して大規模な仏教美術展が開催されました。そして今回、韓国でも展覧会が開催されました。



韓国でのタイトルは「日本の琵琶湖地域の仏教美術－湖に遷った極楽往生への願い－」でした。今回のように日本の資料が韓国でまとまって展示公開されたことは今までなく、一般公開に先駆けて行われた報道向内覧会・開会式では、国立中央博物館が想定していた以上の数の報道関係者、各国在韓大使が来館され、注目の高さがうかがえました。日本からは文化庁長官、滋賀県教育長、九州国立博物館長のほか、出品者も開会式に出席され、大歓迎を受けました。

展示会場は児童・学生や親子連れ、また熱心に見学する人たちでにぎわい、映像ブースで流された滋賀の風景写真も好評でした。これまで韓国では、韓国的な要素のある日本の文化財を中心に紹介してきましたが、この展覧会は日本で発展を遂げた仏教美術を取り上げたため、「新鮮かつ挑戦的な展示」と評価されました。

◆琵琶湖文化館の収蔵品を中心とする滋賀県の文化財59件（国宝4件、重要文化財31件）は、韓国ソウル市・国立中央博物館における展覧会「日本 仏教美術－琵琶湖周辺の仏教信仰」（会期：2011.12.20～2012.2.19、主催：文化庁・滋賀県・九州国立博物館・韓国国立中央博物館）で公開されました。

これは文化庁が毎年開催している海外古美術展として開催されたもので、滋賀県の資料は日本代表として韓国に渡りました。

☆当館ブログでは、この韓国での展示の舞台裏など、いろいろなことをご紹介しています。☞ <http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>



当協会職員の日頃の研究成果を取りまとめた『紀要』の最新号を刊行しました。本号では、「地震考古学」発祥の地とも言える滋賀県ならではの集成・論考をはじめ、今後の研究・論考の基礎となる資料調査や再評価など、幅広い内容となっています。また、埋蔵文化財の枠にとらわれない論考・分析もあり、そのアプローチの多彩さに職員の個性とこだわりが光る一冊となっています。



■収録論文

地震考古学の発展にむけて（濱 修）

滋賀県竜王町堤ヶ谷遺跡出土の土偶形容器と石器について（中村 健二）

弥生時代前期～中期の土器観察覚え書き

一針江浜遺跡と長命寺湖底遺跡の弥生土器（小竹森 直子）

古代近江における職能漁民の動向

－松原内湖遺跡出土の刺網系漁網の分析から－（大沼 芳幸）

滋賀県大津市国分所在礎石「へそ石」の周辺（小松 葉子）

近江国野洲・甲賀郡境をめぐる－試考

－大山川流域の条里地割を手がかりとして－（辻川 哲朗）

天井川の生い立ちを考える その3 一天井川と埋没河川との関係について（重田 勉）

比良山系の山寺－大津市歓喜寺遺跡について（小林 裕季）

明治山と旅順－乃木希典を求める人々（松室 孝樹）

■価格・お申込みなど

◇価格など☞ A4判並製版 68頁 価格 1000円（税込・送料別）

◇お申込み☞ 財団法人滋賀県文化財保護協会 総務課（077-548-9780）まで。

※ホームページからも購入申し込みできます。☞ <http://www.shiga-bunkazai.jp/>